

C-74 明治時代婦人洋装の研究—東京芸術大学所蔵のアフタヌーン・ドレスについて—
東京家政学院大家政 豊原繁子 東京家政学院短大 ○井上和子

目的 現存する過去の時代の衣装は、その履している時代のファッションの一部を伝達するものであって、資料としての価値にもそれぞれ差が認められるが、その時代の服飾をなまご直接に物語る資で貴重である。明治43年(1910)に当時の農商務省から東京美術学校(現東京芸術大学)に寄贈されたアフタヌーン・ドレスは、現存する明治婦人洋装の数少ない資料の一つである。このドレスについて、その時代的背景との関連を探りながら技術的考察を試みたい。

方法 このドレスはロンドン製であるので、英国を中心に各国服装史、文化史等当時の服装に関する諸般の文献、資料を参考にして、その形態、寸法、裁断、縫製、装飾の各面から検討した。なお、明治婦人洋装を数多く手がけられた服飾界の先達の有益な談話を得た。

結果 このドレスの製作時と着用者は判然としていないが、寄贈時及び検討の結果から、1908年以降に、おそらくは1909年頃に製作されたと思われる。上体はSカーブラインの流行した時代の特徴を、スカートはそれ以後の時代の特徴をデザインの上で示している。上質の生地、レースのハイカラー、豊かな刺しゅう、コード飾りなどは19世紀末から20世紀初頭にかけてのSライン時代、さらにホブル・スカートの流行で知られる第一次大戦前の時代に共通してみられる贅沢と優雅のしるしである。